早川町応援団獲得マガジン

# やまたらけ

YAMADARAKE

OCTOBER
No. 19
2006

## 早川の自然に魅せられて
## ～村田雅生の生き方～

8月終わりのこの日、野鳥公園の自然観察路には背の高い木々に葉が茂り、涼しい風が吹いていました。案内してくれたのは、野鳥公園の管理人、村田雅生さん。

「あっ、この鳴き声は…」

村田さんが言うたびに、足をとめて耳を澄ます。遠くから確かに聞こえてくる鳥の鳴き声。はたしてその正体は…？

南アルプス邑野鳥公園は、全国からたくさんのお客さんが訪れる早川町の人気観光スポットです。ここには早川町の鳥であるヤマセミをはじめ、毎年70～80種類もの野鳥がやってきます。管理人を務める村田雅生さんは、自然に憧れて早川町に移り住んで以来、野鳥公園で働きながら、四季折々の自然の変化を見つめてきました。春には咲き乱れる花のまわりを舞う蝶。夏には樹液を求めて集まるカブトムシ。秋の紅葉や、冬の山に暮らすシカやイノシシの足跡…。野鳥公園の自然観察路は、季節ごとに表情を変える山の景色にあふれています。

今回のやまたらけでは、村田雅生さんと一緒に野鳥公園をあるきます。村田さんが惚れこむ早川の自然の魅力。野鳥公園での取り組みと、この仕事を通して見えてきたこと。

はやる心を抑えて、自然観察路ウォーキングへいざ出発！

■オニグルミ：野鳥公園周辺には、オニグルミの大木が多く見られる。その実は、リスやネズミなど小動物の貴重なエサだ。

■ミズヒキ

■コガネグモ：こちらは一枚網だが、白いギザギザの隠れ帯を張り、姿を隠す。

■やませみ橋：この吊り橋を越えると野鳥公園。

管理棟わきの小道に足を踏み出して、自然観察路の始まりです。細い道を下り、小さな川を越えると、青々とした草の茂るはらっぱにでます。まず向かったのがはらっぱの端につくられた観察棟。鳥がびっくりしないよう、足音を立てずにそっと階段を上ると、二階の窓からオシドリ池に集う鳥達がみえました。

「あっ、今、鳥がなきましたね。なんて聞こえましたか？」と村田さん。

ぴーちょ、ぴーちょ、って聞こえたような…。

「この鳥はね、チョット来い、チョット来い、って言っているように聞こえたでしょう。コジュケイという鳥ですよ。」

なるほど、鳥の鳴き声から何の鳥かわかるんですね。はらっぱも、ただ突っ切るのではなくて立ち止まって足元に目をやると…

「これはジョロウグモです。3枚巣を張っているでしょう？外側の網にゴミがくっついて、中央の網で餌となる虫だけをとれるようにしているんですよ。」

なるほどなるほど、蜘蛛の巣にもそれぞれの流儀が。はらっぱを抜けると河原ゾーン。蝶がふわふわとやってきて、川の下流へと飛んでいきました。さらにコナラやハンノキの生える雑木林ゾーンへと進むと、木の根もとに、半分にわれたクルミの殻が。リスがふたつに割って食べたものだそうな。土に残った足跡や、木の枝に残った爪の跡、動物の気配を感じながら注意深く歩きます。途中、赤松の林できのこを見つけ、竹林の中を下ると自然観察路の終点。たっぷり2時間、全身で自然を感じるウォーキングでした。

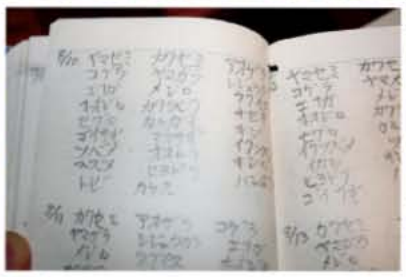
ありがとうございます村田さん！どうやって、こんなに自然と仲良くなったのですか？

■ジョロウグモ：網を三枚張る。真ん中がエサを捕まえる網で、前後の網はゴミよけで、松の葉が着いていた。くっつくのは横糸だけ。黄色い粘着成分がついている。

## 野鳥公園での仕事

「野鳥公園で働き始めるまで、鳥のことは詳しくなくて。最初の半年間は、とにかく鳥を覚えるのに必死でした」。今では野鳥公園の維持管理から、鳥のデータの蓄積、お客さんの案内とひとりでこなす村田さんですが、もともと鳥の専門家だったわけではなく、働きながら本や雑誌で鳥の生態を研究してきたそうです。

「まず、仕事をしながら鳥の声が聞こえると、すぐに飛び出してその鳥が姿を現すまで30分でも待つわけです。姿が見えたら、それを本で調べて。今では、声を聞けばあの鳥だなって大体わかります。」



■村田さんの日課。その日見られた鳥を記録した貴重なノート。20種類を越えるのは当たり前。書きためたノートは10冊を超えた。

渡りの季節の4月には、多いときで1日40種の野鳥を確認したこともあるそうです。いつ、どんな鳥がやってきたかを記録して、お客さんに野鳥の魅力を伝えるのが村田さんの大事な仕事。野鳥公園のオフィスには、毎日つけている鳥の飛来記録や、鳥の羽の標本、村田さんの撮り貯めた写真の数々が収められています。

## 早川の自然との出会い

「小さな頃から自然が大好きで、早川のようなところで暮らしたいという思いがずっとありました。」と語る村田さんは、実は生まれも育ちも東京です。物心ついた頃から虫を観察するのが大好きで、いたあだ名は「虫博士」。夏は夢中でセミやカブトムシを追いかけ、冬は冬で石をひっくり返しては虫を探している、そんなこどもだったそうです。

村田さんと早川の自然との出会いはというと、「父親が早川町の出身で、年に2回は早川に帰っていました。早川では両親が川に連れて行ってくれて、魚のつかみ取りをしたり、虫を捕まえたり。僕の子どもの頃は今よりもっとたくさん虫がいたんです。家でご飯を食べていると、カブトムシが飛んできたりして。」朝から晩まで、自然の中で遊べるのが楽しくて仕方なかったんですね。東京の高校を卒業すると、自然の中で働きたいと言う気持ちから、長野県の

## ツアー、イベント情報

5日朝からの参加も可能！

11/4-5

### 今年こそ、御殿山からの絶景が見たい！！
# ダイヤモンド富士と早川の紅葉

富士山の山頂付近から昇る太陽は、その景色の美しさと場所、時間、天候などの条件が揃わないと見られないことから、「ダイヤモンド富士」といわれ、多くの写真愛好家を魅了しています。

早川町ではこの絶景を紅葉の中楽しむことができます。一瞬の輝きを見た後は、湯島の湯でゆっくり温泉につかり、紅葉を堪能していただけます。お子さんも大歓迎。ご家族でお越し下さい！

**プログラム（予定）**

～4日（土）～
- 14:00　集合・野鳥公園散策
- 17:00　ヘルシー美里（宿）到着
- 18:00　きのこづくしの夕食

～5日（日）～
- 4:00　出発（登山は片道1時間）
- 6:00　御殿山山頂到着
- 6:30　日の出
- 7:30　下山・朝食
- 10:00　湯島の湯・入浴
- 11:30　解散

2002.2.7　御殿山から見たダイヤモンド富士

2005.11.6　御殿山から見たルビー富士
※昨年は曇り空で、残念ながらダイヤモンドは見られませんでした。

**日時**／11月5日（土）午後2時～翌6日（日）午前11時30分まで
**集合場所**／野鳥公園駐車場（おばあちゃんたちの店前）　※右下記地図を参照
**参加費**／前泊の場合：大人12,000円、小人10,500円
一泊二食、入浴料込み。**会員は1,000円引き！**
当日の場合：大人2,500円、小人1,500円
朝食、入浴料込み、**会員は500円引き！**
**定員**／15名（要申込、先着順、締切10月27日）
1時間程度の山歩きができる方に限ります。
**備考**／懐中電灯、記録用機材（カメラ等）、山歩きの際の行動食と飲み物持参。
防寒対策をしっかりと。山を歩ける格好でお越し下さい。比較的歩きやすいコースですが、重い機材は持ち込まないでください。
雨天の場合は町内を観光します。

湯島の湯

～申込先～
やまだらけ編集部　☎0556-45-2160

12/3

### 野鳥公園主催自然観察シリーズ⑦
# 早川で冬を過ごす鳥たち

今回は、厳しい冬を早川で過ごす鳥たちにスポットを当てます。植物の実を食べるジョウビタキやミヤマホオジロ。群れで移動するカラの仲間。畑でエサを探すモズ。

昨年の観察会では、運良く上空を旋回するクマタカに会うことができました。今年も何かが起こる予感！

**日時**／12月3日（日）10時～13時頃
**集合場所**／野鳥公園駐車場
**参加費**／大人800円、小人500円
※入園料込み
**持ち物**／歩ける服装で。
防寒対策を十分に。
**定員**／20名（要申込、締切11月30日）

～申込先～
南アルプス邑野鳥公園
☎0556-48-2288

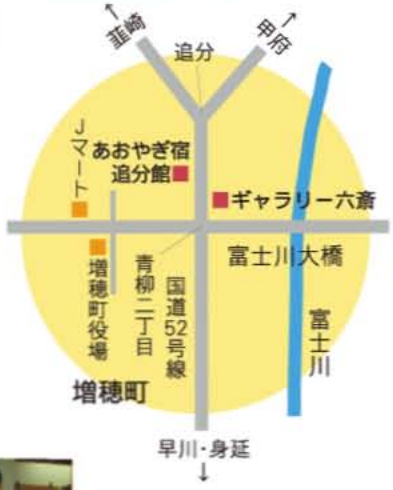
**こんな鳥に出会えます！**
ヤマガラ、ヒガラ、エナガ、シジュカラ、ジョウビタキ、ルリビタキ、モズ、ミヤマホオジロ、カシラダカなど

## ツアー、イベント情報

10/18-30

増穂町・酒蔵ギャラリー六斎にて

# 六斎市／富士川流域の技・作家たち展




早川町と山一つ隔てたお隣の増穂町で、「第一回富士川流域の技・作家たち展」が開かれます。これは、山梨県の富士川流域（峡南地区）に伝わる伝統工芸に携わる人たち、また地域に移り住み新風を吹き込むクラフト作家を一堂に集め、その作品を展示販売するイベントです。

早川町からも、ギャラリーオゴンの淵上照生さん（木工）、金井君恵さん（ガラス）、岳龍窯の米山久志さん（陶芸）、のぶ子さん（藍染）ご夫妻、また雨畑の硯匠庵で硯を彫り続ける望月定徳さんらが出店します。

ギャラリー六斎は、萬屋酒造の酒蔵だったところを改装してできた、とても雰囲気のあるギャラリーです。早川から出展するみなさんの作品も、ひときわ目を引くことでしょう。

また会期中の10月21日、22日には峡南地区の旬の農産物や特色のある加工品を集めた「特産品販売マーケット」が、ギャラリー六斎向かいのあおやぎ宿・追分館にて開かれます。早川町からも、森林組合と南アルプスふるさと活性化財団が出店予定。なめこ、マイタケ、山蜜、山葡萄ワインなどなど、早川町の特産品をお求めになれます。

左から、米山さんご夫妻、望月定徳さん、淵上照生さん

昨年度のそば祭りも大勢のお客さんで賑わいました。

11/12

紅葉を見ながら手打ちそばに舌鼓！

# 第12回南アルプスの紅葉とそばまつり

秋最大のイベント「南アルプスの紅葉とそば祭り」が、今年もヘルシー美里にて開催されます！町内各地区が味を競う手打ちそば、山葡萄ワイン「恋紫」の新酒も味わえます。もちろん会員の方々には、石臼挽コーヒーをサービスします。みなさん会員証をお忘れなく！

日時／平成18年11月12日（日）
午前10時～午後３時
※雨天決行
会場／ヘルシー美里グラウンド
※次ページ地図参照

## 早川旬の直送便

昔ながらの里芋が復活！

# 大島集落の「島根芋（とうねいも）」

料金／送料込み1,900円（本体価格900円）
内容／島根芋１kg、芋茎（乾燥）25g
締切／10月末日
発送／11月中旬から順次発送
支払／商品と一緒に請求書をお送りしますので、指定の金融機関へお振り込み下さい。

秋といえば、食欲の秋。秋の美味しい食べ物といえば、きのこ、柿、栗などいろいろとありますが、今秋ご紹介するのは「島根芋」という里芋。

早川町の大島集落で以前から栽培されていましたが、ここ数年、この芋をもっと普及させたいという地元の方々の熱意で、栽培規模が広がっています。

なんで普及させたいかって？それはもちろん美味しいから。親芋とその周りに小芋がつき、ズッシリと重いのが特徴で、煮ると中がほんのり紫がかり、しまった味がするとのこと。昔は、お祝い事の席などで食されていたそうです。

今回は、その芋と芋がら（茎を乾燥させたもの）をセットで販売します。秋の味覚をご賞味下さい。

収穫の様子。芋の茎が赤いのが特徴。

～注文先～
やまだらけ編集部
☎0556-45-2160

■ミヤマアカネ：俗に赤とんぼといわれるトンボの一つ。深山に住んでいるから、ミヤマアカネ。

■イタドリの花：普段なら目も止めない花だが、良く見るととてもかわいい。

■エノキ：国蝶のオオムラサキが産卵する木。周囲の草を刈り、産卵しやすい環境を作る。

■岩の上に生えていたコケだが、近づいてみると美しい姿にびっくり。

■オニグルミの木の下には、割れたクルミの殻がいくつも転がっている。これはリスが食べたもの。ふたつピッタリ合う殻を見つけるのも面白い。

牧場に就職したのでした。その後、早川町にやってきたのが8年前。野鳥公園に求人があると聞いて立候補、以来、早川町に住み、野鳥公園で働いています。

村田さんの感じる、早川の自然の魅力とは…「ひとことでいえば、『険しい』こと。まわりが一気に高い山になっているでしょう。ハイキングコースのようなものがなく、簡単に人を寄せ付けない。そして、その合間の、猫の額よりもっとちっちゃい土地に人が住んでいて、あとは全部自然。そんな荒々しい自然が、早川の独特の雰囲気を作っていると思うんです。」

確かに、周りを山に囲まれた早川の風景。野鳥公園を歩いていると、山の間を川が流れる自然の中にいることを感じることができます。

## 生き物の住める環境づくり

しかし最近、以前は姿を見せていた鳥が見られなくなるという例が全国的にあり、早川町も例外ではないとのこと。早川町の自然にも心配がないわけではないようです。

「野鳥公園周辺の雑木林も、今では広葉樹が空を覆って日光が入らず下草が育たない状態。こうして虫が住めなくなると、やがてはそれを餌にしていた鳥が住めなくなってしまいます。」

そして、「森林の荒廃は全国的な現象ではあるのですが、早川の山は戦中、戦後に木を大量に切り出しているため天然林が少なく、その後植林された場所も手が入っていないため荒れてしまっています。山に餌がなくなれば、餌を求めて動物が里に下りてきて、農作物を荒らすことにもつながります。」

山の環境問題は、そこに暮らす動物たちにとってのみならず、里に暮らす人間にとっても深刻な問題なのです。早川に暮らす者として、村田さんは野鳥公園周辺地域から環境整備を進めていきたいと言います。4年前から、野鳥公園の周囲に自然観察路を整備してきましたが、今後はさらに、公園周辺の二次林を整備していくのが目標。「鳥をメインに、生き物の住める空間にしたいんです。鳥が住むためには餌となる虫や蝶がたくさんいることが必要です。そのために、草を刈り、残す木を選んで雑木を切るといった環境整備をしていこうと思っています。」

■最近早川に移住してきたこの家族は、野鳥公園が大のお気に入り。毎週のように訪れ、自然の話で盛り上がる。この日は、村田さんが捕まえたヘビを見せてもらった。

村田さんの強力な味方が、全国から野鳥公園に集まる常連のお客さんたち。5年前に立ち上げたヤマセミクラブのメンバーには、野鳥公園のサポーターとして野鳥公園の整備などいろいろな協力を頂いているそうです。早川に暮らす人、好きで早川を訪れる人、さまざまな人の力を借りて「生き物の住める環境づくり」をしていくこと、それが村田さんの願いです。

## 自然を好きになる

そして、野鳥公園を訪れた人に、鳥とともに周囲の自然をぜひ感じてほしいと村田さん。「ただ自然を守ろうと言うだけではなくて、自然を好きになってほしいと思うんです。」野鳥公園においてあるセルフガイドシートはそのためのツールです。季節ごとに、見ることのできる鳥や虫、植物の特徴が、手書きのイラスト入りでまとめてあります。そのまま歩いてしまえば20分程度の自然観察路ですが、耳を澄まし、足元の草花に目をむけながら歩いてみてください。この鳴き声は何の鳥だろう、この花は何だろうと、立ち止まって考えてみるだけで、まわりの自然の見え方が変わってくる気がします。

■自然観察会の様子。鳥はもちろん、植物や昆虫、動物の姿や生活の痕跡を、村田さんが丁寧に解説してくれる。

「双眼鏡を持ってするだけがバードウォッチングではないんですよね。散歩しながら鳥をみるのでもいい。鳥も虫も、観察しているうちにおもしろさがわかってきます。」さらに、2ヶ月に一度、野鳥公園で行っている、村田さんのガイドつき自然観察会に参加すれば、楽しく歩きながら新たな発見があるのでは。参加者のなかには鳥や虫、植物に詳しい人も多く、毎回村田さん自身いろいろ教わるそうです。

訪れる人とともに、村田さんの自然への取り組みは続いていきます。野鳥公園を入り口に、自然の世界へと入っていってみませんか。（阿部幸）

# 森の落とし物

これらの羽は、野鳥公園や早川町内で村田さんが拾ったものです。どれも実物だ。羽の落とし主、皆さんには分かりますか？

↓野鳥公園のエサ台の常連さん。カワラヒワ。

←コツコツコツコツ木をつつく。キツツキの仲間、アカゲラの羽。

↓バーダーあこがれの夏の渡り鳥といえばオオルリ。

↓滅多にお目にかかれません。野鳥公園の上空を旋回する、クマタカです。

→早川町の鳥。野鳥公園のシンボルといえばこの鳥。そうヤマセミです。

→ピンとしたえんび服の語源。ツバメの尾羽。

→夜になると現れる目のクリクリしたフクロウの仲間。オオコノハズク。

→外国のバーダーはこの鳥を見たくて日本に来るほど。ヤマドリの尾羽。

## ■NEXT やまだらけ

20号特集（12月上旬お届け）

### 早川のもうけばなし（仮題）

戦後から高度経済成長期にかけて、早川町が一番賑わった時期。早川町にはどんな商売があったのでしょうか。

都会からいち早く持ち込まれた物。都会に持っていって売った物。良くも悪くも、早川町が大きく変わった時期。誰もが時代の流れに乗り遅れないようにと、賢明に生きたこの時代。

当時のエピソードを、ユーモアも交えながらご紹介します。お楽しみに！

普段、人ごみの中で生活していると、周りの音に鈍感になっていくものです。今回の取材では、ふとした物音も聞き逃さない村田さんの耳のよさにびっくりしました。仕事柄鍛えた能力だそうで、私も真似してみることに・・・。遠くの鳥の鳴き声、頭の上で木の葉の揺れる音、足元の土を踏んで音、音に注意すると見えてくる世界が変わります。冬になったらまた野鳥公園に行きたいなあ。

【山を覗けば宝の山 やまだらけ】

発行元／フィールドミュージアム運営委員会
住　所／山梨県南巨摩郡早川町茶袋430　〒409-2727
電　話／0556-45-2160　ファクシミリ／0556-45-2268
ホームページ／http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/